



子育て伴走「だいじょうぶ！」通信 No. 9

～みんな大切 笑顔あふれる家庭とこども園に～



R5.4.28 やすぎこども園 園長 福島朗博

◆やすぎこども園がスタートしました ～地域に開かれた園と、地域とともにある園に～

令和5年度が始まり、認定こども園としてやすぎこども園がスタートしました。園周辺のご近所さまに園名が変わったことの挨拶に回ったところ、「駐車場の看板が変わったので、園名が変わったなと気づきましたけど、どんなふう変わったのかなと思ったりしました。」と皆さんからお声をいただきました。「そうですよね～。これまでの保育園に幼稚園のこともできるようになって、保護者さんが仕事に就かれなくてもお子さんが園に通えるようになったんですよ。」と、関心をもってくださったことに感謝しながらお答えしました。



国のこども家庭庁の発足をはじめ、地域の子育て世代のニーズはますます多様になり高まっていると感じます。ちなみに、昨年度に本園で受け入れた『一時預かり保育』のお子さんは8人でした。里帰り出産で安来に帰られた期間に上のきょうだいさんを同年齢クラスでお預かりすることもありました。家庭の都合で生活の場所が一時的に変わっても、子どもに集団の中で育ちゆく権利を保障する制度です。あるいは預け先のない保護者へ養育レスパイトのための利用もできます。休息して元気を取り戻してまた子育てに向かえたら嬉しいことです。その他にも、『親子体験保育』があり、同年齢クラスでお友だちと遊びながら親子で一緒に楽しむこともできます。幼稚園の機能だけでなく、「**地域に開かれたこども園**」として保育の専門性をもって親子に寄り添う地域の子育て応援団を目指していきます。

また、現代は、核家族化が進み、幼少期からの地域社会とのかかわりが薄れ、特に近年のコロナ禍はその傾向に拍車をかけました。子どもは家庭だけでなく地域の宝でもあります。家庭と園だけで完結するのではなく、地域の方々との様々な出会いや交流を通して「楽しい!」「かかわりたい!」から「こんどはこんなことやってみたい!」「あんなふう(人)になりたい!」と心揺さぶられる体験を積み重ねて「その子らしさ」を築いていってほしいと思っています。アフタコロナとなる今年度は、地域の方の力をお借りできる機会再来として「**地域とともにあるこども園**」も目指して取り組んでいきたいと考えています。これまでに引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。



いろんな人に会うごとに ころろが動いて
いろんなきもちがうまれてくる
『ころろってなんだろう』細川貂々(講談社)

◆園風景から ～園生活に慣れるということは・・・～

入園後のしばらくは朝の送りで、わが子の泣き叫ぶ様子に、後ろ髪を引かれる思いで園を後にされた保護者さんもおられたことと思います。一方で、入園をあんなに楽しみにしていたのに、数週間行っただけで「行きたくない!」と言って戸惑われる保護者さんもおられるかもしれませんね。どうして行きたくなくなったのでしょうか。どうすれば、また喜んで行くようになるのでしょうか。……………



子どもは、今まで家庭という小さな社会で平和で安定した生活を送ってきました。お家にいれば怖いことはないこと、親(家族)と一緒にいれば心配なことはないことをずっと感じてきました。でも、だんだんと、家庭と親(家族)だけではつまらなくなってきました。少し知らない世界へ出てみたいしお友だちとも一緒に遊びたくなくなっています。だからこども園の入園を楽しみにするようになったのは、そんな理由かもしれませんね。

しかし、入園してみて大きな違いがあることがわかったのです。

場所は、家庭にない広い教室でしかも知らない部屋がいくつも続いています。子どもはたくさんいるけど、どの人とお友だちになったらよいのかまったくわかりません。大人もたくさんいるけど、担任の先生は優しいのはわかってるけど、みんなが担任の先生にくっついているので他のどの大人にくっつけばよいのかわかりません。生活の流れもまだまだ見通しがもてません。なので、緊張、緊張、緊張…でストレスはたまる一方です。



ですから、夕方のお迎えのときの涙目や安堵の様子は、きっと緊張がほどけたのでしょうね。子どもは子どもなりに新しい園生活のストレスを抱えつつ頑張っています。そんなときは、「よくがんばったね。」と子どもをしっかり抱いてあげることです。下のきょうだいがいても本人を抱いてあげて、園生活で疲れ切った心をいやしてあげることが大切です。決して、上の子は言えばわかるから、ことばだけで慰めようと考えないようにしましょう。

どの子ども、最初は緊張して園生活を始めます。そうして少しずつ少しずつ慣れていくのです。毎日、実体験を積み重ねていくことが一番大切です。したがって、病気にならないように、あるいは寝不足で気だるいことがないように乳幼児の生活リズムを大切に(大人の生活リズムと切り離して)、元気に毎日登園させましょう。朝家を出るときには、「帰ったら、いっぱい抱っこしてあげるから、先生やお友だちといっぱい遊んでおいで！」と明るく声がけしましょう。

今後も、園生活の長い子どもも含めて、何かの折りに登園をぐずることがあるかもしれません。そんなときも、同じような対応で大人がゆったりと接して「だいじょうぶだよ。」と安心を授けてほしいと思います。<参考:「学び楽しむ子育てのヒント」金田昭三著(同文書院)>

◆5月20日(土) ことば・子育て講座のご案内「乳幼児のころとことばを育む」

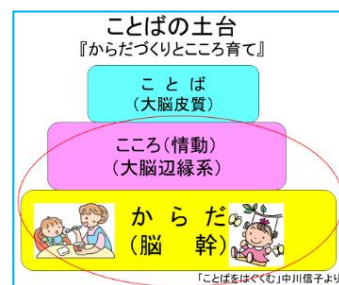
講座でお話する内容について概要を紹介します。

○赤ちゃんってすごい!

「おっぱいやミルクのときに休む赤ちゃん」は4千種類以上ある哺乳類の中で人間だけです。どうしてでしょうか?それは人間の赤ちゃんは授乳のときも大人にやりとりしてもらえるように、「関係」を約束されて生まれてくるからなのです。

○昔、ハーローという学者が行った隔離飼育ザルのリハビリ実験をもとに、人が生きていく上で大切なこと、外へ向かうための原動力となるものを紐解いていきます。それは、自分は守られているという絶対的安心感です。

○「ことば」が出るために、なぜ「からだ」と「ころ」がセットで土台になっていくのでしょうか。それは、脳の働きが関係してきます。親子で体を使ってオノマトペ(「ピョンピョン」「パカパカ」といった擬態語や擬声語)を入れて楽しく遊ぶと、脳の中の通りがよくなって、ことばの理解と表出につながっていくのです。



○感情の社会化(言語化)をめざしましょう!

「いやだ!」「くやしい!」といったネガティブな負の感情を閉じ込めないで適切に表現できるようにしていくことが大切です。子どもに寄り添い、その時々揺れる子どもの心をとらえて、「いやだね」「くやしかったね」と実況中継してあげる大人の手助けが必要です。

○イヤイヤ期の子どものかかわりは大変ですね。一緒にカッカしないで「しょうもないな」と一歩引いてみることもお勧めです。また、こうしてほしい大人の気持ちを誠実に言葉で伝えていきます。その際の「受けとめる」と「受け入れる」の方向性の違いも考えてみましょう。

○ちょっとためになる家庭での絵本の読み聞かせも紹介できたらと思っています。

園長の

ことば・子育て相談会 5月20日(土) 午後を予定しています
ご希望の方は平日でも受けつけます

園長だよりバックナンバーはこちらです⇒

